

2007年2月16日

各 位

アステラス製薬株式会社

東京大学に寄付講座「アステラス創薬理論科学」開設のお知らせ

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：野木森 雅郁、以下「アステラス製薬」）と東京大学大学院薬学系研究科（本部：東京、科長：柴崎 正勝）は、本年4月より寄付講座「アステラス創薬理論科学」を開設しますので、お知らせします。

東京大学大学院薬学系研究科は、医薬の創製からその適正使用までを目標とし、生命に関わる物質、及びその生体との相互作用を対象とする学問体系である薬学の全ての分野において、最高水準の研究活動を行い、これに裏付けられた教育活動により、創薬科学及び基礎生命科学の発展に寄与する研究者、医療行政に貢献する人材、高度医療を担う薬剤師の養成を教育・研究の目的としています。

創薬理論科学は、ゲノム科学を基盤としたケミカルバイオロジー^{*1}研究による創薬科学の理論化を目標としています。主として、化合物固相化によるタンパク質 化合物相互作用解析法^{*2}を用いた標的タンパク質解析からの創薬研究を行います。また、ヒトゲノム配列からは予測できない mRNA の多様性（疾患・年齢等の環境要因による、合成されるタンパク質の違い）をもとにしたヒト遺伝子(cDNA)の構造・機能と疾患の関係の解明からの創薬研究を実施します。本寄付講座では、アステラス製薬共同会長竹中登一(教育担当)が講義を行い、株式会社リバース・プロテオミクス研究所代表取締役社長磯貝隆夫(研究担当)が研究の指導を行います。

また、本寄付講座は、薬学系研究科が中心となって提供している東京大学大学院生に対する大学院共通講座の一部となり、今後の創薬科学をリードする新たな理論及び基盤技術を構築、創造し、研究成果の医療への応用を図っていきます。アステラス製薬は、今後も薬学教育の実学的側面から若手研究者の育成に貢献していきます。

寄付講座の概要

1. 大学名 : 東京大学大学院薬学系研究科
2. 講座名 : 「アステラス創薬理論科学」
3. 寄付金額 : 総額 2億5千万円（年間5千万円）
4. 設立期間 : 2007年4月～2012年3月
5. 教員名 : 客員教授 竹中 登一（教育担当）
客員教授 磯貝 隆夫（研究担当）
6. 研究 : ゲノム科学を基盤としたケミカルバイオロジー研究による創薬科学の理論化

7. 教員略歴

竹中 登一 (医学博士)

1964年 岐阜大学農学部獣医学科卒業
山之内製薬株式会社 薬理研究員
1993年 同 取締役 創薬研究本部長
1997年 同 常務取締役 研究開発本部長
2000年 同 代表取締役社長 (CEO)
2005年 アステラス製薬株式会社 代表取締役社長 (CEO)
2006年 同 代表取締役共同会長
1991~2000年 筑波大学連携大学院基礎医学系 客員教授

専門分野： 薬理学 (受容体、イオンチャネル)

実績： ペルジピン (ニカルジピン、Ca拮抗薬、高血圧) ローガン (アモスラロール、& 遮断薬、高血圧) ハルナール (タムスロシン、1遮断薬、前立腺肥大症) ヒポカ (バルニジピン、Ca拮抗薬、高血圧)

原著論文： 83報、総説：6報

表彰： 日本薬学会技術賞、発明協会内閣総理大臣表彰、
科学技術長官表彰、紫綬褒章

磯貝 隆夫 (農学博士)

1973年 名古屋大学農学部農芸化学科卒業
藤沢薬品工業株式会社 醗酵研究員
1979年 東京大学 応用微生物研究所 受託研究員
1994年 NIH, National Institute of Child Health and Human
Development 客員研究員
1996年 株式会社ヘリックス研究所 部長研究員
1998年 筑波大学 生物科学系 客員教授 (連携大学院)
2000年 筑波大学大学院 生命環境科学研究科 客員教授
2001年 株式会社リバース・プロテオミクス研究所 取締役研究所長
2006年 同 代表取締役社長

専門分野： ヒト遺伝子解析、人類遺伝学、遺伝子工学、微生物遺伝学

原著論文： 42報、総説：12報

*1 ケミカルバイオロジー：有機化合物を手がかりに生物・疾患の理解をめざす学問領域。

*2 化合物固相化によるタンパク質 化合物相互作用解析法：生体試料など数多くのタンパク質を含む溶液から、ある化合物に特異的に結合するタンパク質の全体像を知るため、目的とする化合物を合成樹脂など水に溶けない担体に結合させておき、試料溶液中に一定時間分散させた後、遠心分離などの方法で担体を回収し、それに結合したタンパク質を分離同定する方法。